



大雨と洪水に対するダムの役割

ダムの役割は主に、農業・工業用水や水道水に利用するための水を確保すること（利水）と、大雨で増水した水の一部をダムに貯め込んで、下流へ流れる水の量を調整すること（治水）に分けられます。今回は、治水についてご紹介します。



ダムがないと…
雨が降った分だけ川の水かさが増す



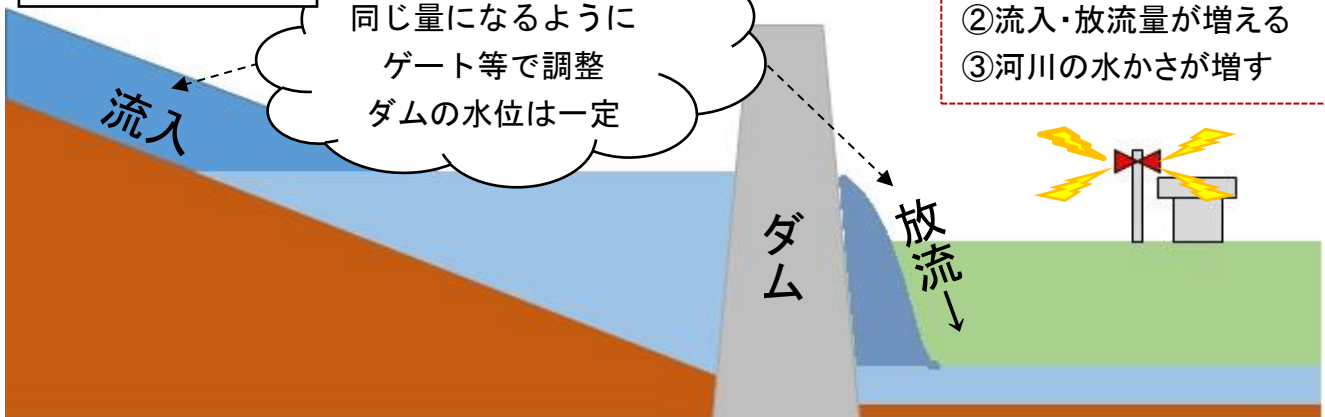
ダムがあると…
ダムで一定量貯めるので
下流の洪水を緩和できる



ダムの放流は？

〔平常時〕
(通常の降雨時)

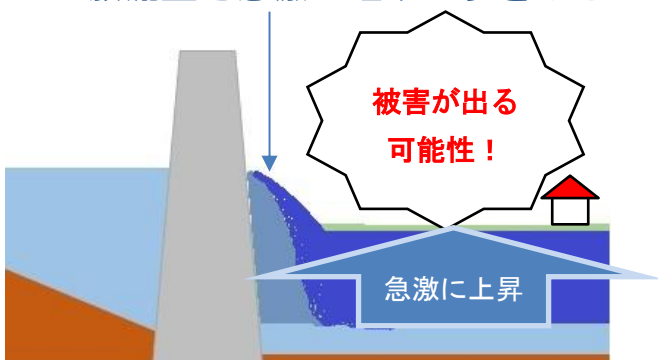
同じ量になるように
ゲート等で調整
ダムの水位は一定



- ①雨が降ると…
- ②流入・放流量が増える
- ③河川の水かさが増す

ダムからの放流量が決められた水量以上となる場合は、**ダムの下流にある警報局のサイレンを鳴らし警報を発するとともに、パトロール車で広報・巡視を行い、河川周辺の方々に注意喚起**を行っています。

ダムの放流量を急激に増やしすぎると…



ダムからの放流量を一度に急激に増やしすぎると、下流河川の水かさが急激に上昇し、被害が発生する恐れがあります。このため、**ダムから一回に増やすことのできる放流量は規定**されており、また、一度放流量を増やしてから再度増やすまで、一定の時間をおいて操作します。

洪水調節と異常洪水時の操作

ダムからの放流量が、規定されている量になると、放流量が一時的に一定になるように抑えます。これにより、下流河川の水かさが上昇するのを抑えることができ、代わりにダムに水が貯まって水位が上昇します（洪水調節）。

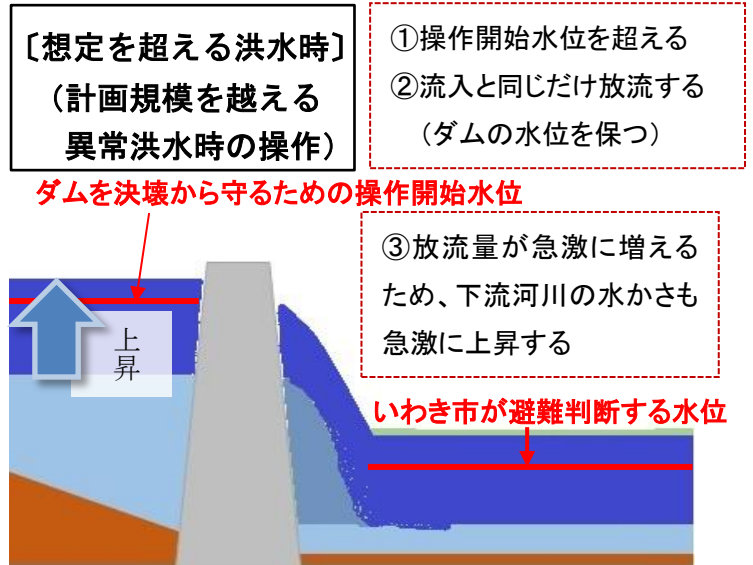
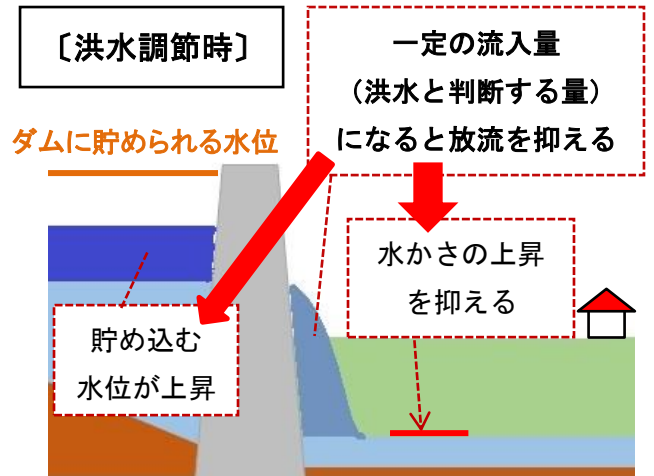
ダムに貯められる水の量は限度があり、ダムによってはそれを超えると水圧により決壊する恐れがあります。このため、ダムを決壊から

守る操作（計画規模を越える異常洪水時の操作）を行います。この操作を開始する1時間30分前と1時間前に、いわき市や消防、警察など関係機関にFAXで連絡しています。

想定以上の大雨が降った場合には、ダムへの流水はすべて下流に放流するような操作が生じます。

ダムがあるからといって、洪水が発生しないというわけではありません。

いわき市から避難指示が出た場合は、自分や家族の命を守るため、指定された避難所に速やかに避難して下さい。



ダムと関係機関での連絡体制を再確認・調整する会議

西日本豪雨の際にダムと県と市町村での通知がうまく出来ず、ダムの下流に被害があったため、福島県の各ダム管理者は住民の皆様へ周知するための関係機関との連絡体制について、再確認などを行う会議を開催しました。

現状の課題は、以下の2つが指摘されました。

- ・必ずしも全員が情報を得ているわけではない
- ・ダムの放流警報は記録的な大雨の中では、サイレンやアナウンスが遠くまで聞こえない可能性がある

これらの課題に対して、これからも関係機関と協働し地域住民等の更なる安全・安心の確保を図るため、「解りやすい通報」と「確実な通報」について、検討・改善していきます。**有事の際は、まずは「自分の命は自分で守る」行動をお願いします。**

